

次世代ネットワークの接続料算定等に関する研究会(第8回) 議事要旨

1. 日 時：平成20年11月11日(火) 10:00～11:40

2. 場 所：総務省低層棟1階 総務省第1会議室

3. 参加者

(1) 構成員

：東海座長、酒井座長代理、相田構成員、伊藤構成員、
佐藤構成員、関口構成員、手塚構成員

(2) 総務省

：桜井総合通信基盤局長、武内電気通信事業部長
古市料金サービス課長、村松料金サービス課企画官、
飯村料金サービス課課長補佐、岡本同課長補佐

4. 議題

(1) 報告書案の検討

5. 議事要旨

<現状報告>

○ 事務局より、報告書案を用いて説明。

<質疑応答>

○ 質疑応答における主な発言は以下のとおり。

- ・ 定額制について、常時繋いだままの人のためにプロバイダの負担が大きくなってきている現状から、定額+トラフィックを考慮した従量制という形もありうるのではないかと。今回のNGNのドライバの話で言えば、将来的に「ポート容量+トラフィック」というドライバもあるのかなと思う。それと、2010年までに、NGNのデータを取って次の算定方法に移れるかという点は不安なので、多少書きぶりに余裕を持たせた方が無難ではないか。
- ・ 定額制の話は、プライシングの話か。
- ・ プライシングの話。ただ、プライスの話で、そういう議論があれば、コストの方も多少影響を受けるのではないかと。
- ・ (事務局)第3章のコストドライバの議論で、アクティビティコストとキャパシティコストでは、前者が良いという前提で、トラフィックに着目して各機能にコストを分けることとしている。その後、どうプライシングするかについてはNTTが判断するものであり、ここでは整理していない。

P38で、2009年からの算定期間は複数年もありうるが、暫定ドライバということで短期間の設定が望ましく、今後の状況をみて検討するという書きぶりになっている。

- ・ 2009年と2010年のスムーズな移行について、強調した文言だと理解している。
- ・ TSコストとNTSコストであれば通信の世界で伝統的に使ってきた対置概念であるが、アクティビティコストとキャパシティコストを対置すると、少し違和感がある。
- ・ (事務局)TS・NTSと分けた場合、NGNは中継網でありTSに分類され、このTSコストを各機能に割り振る話だと理解している。
- ・ P20における、下側のユーザごとのNTSコストは、誰が負担する形になるのか。その点が明らかになると、上側の、例えばISPが設定するユーザ料金はどうか、という議論に結びつくのかなと思う。
- ・ 全て通信の世界は、TSとNTSという分け方になっている中で、直課できない中継ルータと伝送路について、できるだけ活動実態に合った配賦基準は何かという議論をしている。
- ・ 一部についてはキャパシティなど、アクティビティ以外のもので補完することはあるのか。
- ・ (事務局)P38にあるように、10年度以降については、想定トラフィック比と、ポート実績トラフィック比を挙げているが、他の案の可能性を否定するものではない。
- ・ 2010年の光ユーザ2,000万契約について、達成が難しいのではという報道も出ているが、仮に大きく下がった時に、算定にどんな影響があるか。
- ・ (事務局)NTTの2,000万契約の目標については、変更されていないと認識しているが、一般論として、算定の分母である契約数と、分子である設備投資額の変動要因によって接続料の水準は変動することになる。
- ・ P38、「コストドライバを用いて算定された接続料原価に基づき」という文でコストベースと言いながら、「接続料を設定(プライシング)する際には、利用者に与える影響を考慮」と、コストベースから離れるように言っていて、矛盾していないか。前段は取るべきではないか。
- ・ (事務局)接続料原価はコストベースであることが必要だが、接続料を設定する際は、それ以外の需要予測や算定期間といった要素で、接続事業者や利用者に与える影響を考慮可能である、という前提で書いている。
- ・ コストそのものの算定は、ドライバを変更することによって、そのコストが変わる。しかしプライシングは、ある想定値から変えないこともあり得る、例えば2009年で設定した水準が、2010年に続くこともあり得ると言っている。
 - 仮に2010年に、ポート容量比から想定トラフィック比へとドライバを変えたときに、算定される接続料の原価をそのままプライシングに反映することはないかもしれない、ということか。
- ・ (事務局)書きぶりはともかく、コストベースから離れるものではない。プライシングの際には、算定期間の設定や、需要の予測など、色々な変動要素がある。原価をベースとしつつ、プライシングの際に、急激な利用者料金の変動とか、事業者へ与える影響を加味できるのではないか、という認識で書いている。

- ・ 事業法上、コストから離れるとは言えない。出来るのは、コストを乗せる期間を3年にするとか、あるいはトラフィックの予想値を変えることで、それを想定しているのではないか。
- ・ 「基づき」という言葉があるからかもしれないが、読み違いの危険がある。
- ・ 接続料水準に関わらず、コストの実態に合わせてドライバの算定を考えるのが1行目。それがベースにあるけれど、それだけではない接続料の在り方について考えてきた。そういうことを書きたいが、それは「コストドライバに基づき算定する」という言葉がなくても言えるのではないか。
- ・ (事務局)誤解があるようであれば削除する。
- ・ コストベースの料金であるということは議事録に残るから、削除しても良いだろう。
- ・ コストから離れるのもやむなし、と読んでいた。コストがあつて、ドライバがあれば、導かれる結論は限られるので、その結論が利用者の期待するものとかけ離れてしまう時にどうしようか、というのが論点。コストにしがみつくと、当初目指したものと違ってしまふのではないか。
- ・ コストベースに計算すると結果が適当でない値になるときに、需要予測を見直すことはある。ただ、それも邪道な気もして、予測を見直すよりは、そもそものコストは3分5円と出たけど、とりあえず7円にする、というのもあって良い気もする。コストから絶対離れたらいけないという話になると、手遅れになることがないか。多少離れてもしかたがないというニュアンスがあっても良いのではないか。
- ・ 色々な理由でルールが変わったりして、接続料が高くなったり低くなったりすることがあるが、原則はコストに基づいて料金を作るということが必要。安易に結果を見て考えることにすると、結果の妥当性について、我々がその都度判断するということになりかねず、あるべき姿ではないと考える。あるルールから違うルールに変わったので、しばらく移行期間を置く、ということはある程度得ると思うが。
- ・ コストを無視して良いと思っている訳ではない。一般に、あるルールを適用した結果、適当でない結果となった場合、それが出ないように調整したいというのは、色々な世界にある話。赤字なら赤字でしっかり把握した上で、その先の判断が出てくるはず。あくまでコストベースだが、実際のプライシングのところでは戦略的に、その両方を見て欲しい。
- ・ 結局は皆同じことを言っていて、見ている視点が違うということ。誤解されなければ良い。
- ・ P14、左に事業会計、右にNGNの設備別コストの絵があるが、今ある設備について、NGNにも利用できる部分があるとすると、従来の設備のコストは減るのか。従来の接続料にどういう影響があるのか。
- ・ (事務局)今ある設備をNGNと共用したとしても、NGN向けに設備を増設する場合もあって、接続料が上がるか下がるかは場合による。
- ・ 設備を変えない場合は、NGN以外の分は減るだろうが、構成を変えるので、結果がどうなるかは見てみないとわからないということだろう。

- ・ポート容量比とトラフィック比の議論だが、ポート容量比はキャパシティコストを考慮した費用配賦、トラフィック比はABC的、という区分けとあるが、前々から違和感があった。アクティビティベースは、従来のどんぶり勘定的であったものを、活動範囲に落とし込んで細かく見る、この場合サービス別に見るとのこと。

これは、資源ベースでみるのか、消費ベースでみるのか、その違いであって、それをアクティビティなのかキャパシティなのか、という書き方をすると誤解を生じるのではないか。もしそれに代わる表現があれば、変えていただいた方が良いと思う。トラフィック比の方は、ABCにむりやり結びつけているような感覚も受ける。

- ・より適切な表現を紹介頂ければ幸い。資源と消費という区分けとは、また違うと思う。キャパシティを用意している場合に、それをベースに考えるか、あるいは動いている部分について考えるかということだろう。
- ・ネットワークはキャパシティが中心で、実際に動いているかより、どれくらいに設計するか、という考えに基づく。ポート容量は10G用意すると最大10Gのトラフィックが出るが、トラフィックは平均すると100Mしか使わないだろうとなる。
- ・用意しているキャパシティに基づくのか、あるいはキャパシティをどれくらい使ったかを見るのか、その違いだと思うが、良い表現が思いつかない。
- ・NGNの難しい所で、電話を繋ぎっぱなしにするのと、1日何分通信するのが、アクティビティとして同じなのか。アクティビティの中に繰り込むべき要素として、ビット数以外の要素もあると思うが、我々にはまだ分からない。
- ・いい表現がないなら、注釈を付けるやり方でどうか。座長と事務局で原案を考えてみる。
- ・2009年申請の算定期間は、2年はあり得ないのか。
- ・(事務局)P38、3行目にある通り、2009年から複数年もあり得ると考えているが、算定期間については、NTTが任意に申請することになっている。
- ・今日の議論を踏まえ、①P38については1カ所削除する、②キャパシティコストとアクティビティコストについて注釈を入れる、の方向で原案を座長と事務局で作成し、構成員に照会することとする。以上2点について修正の上、報告書案を意見公募することとした。

<その他>

- 第9回会合は12月19日(金)開催予定。

(以上)